

## 外国人の人権尊重に関する実践事例

### 1. 基本情報

#### ○都道府県名及び市町村名

群馬県桐生市黒保根町

#### ○学校名

桐生市立黒保根小学校

#### ○学校のURL

<http://www12.wind.ne.jp/kurosyou/>

### 2. 学校紹介

#### ○学級数

【通常の学級】5学級（5・6学年複式学級）、【特別支援学級】0学級、  
【合計】5学級

#### ○児童生徒数

【全児童生徒数】55人（平成28年5月1日現在）  
（内訳：1年生12人、2年生11人、3年生9人、4年生9人、5年生8人、  
6年生6人）

#### ○人権教育開発推進事業、人権教育研究推進事業実績（実施年度及び事業の別）

桐生市国際理解推進事業（H27年度～）

#### ○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

##### 【学校の教育目標】

##### 基本目標

郷土を愛し、豊かな心情と創造的な知性を持ち、健康でたくましい、実践力のある、「生きる力」を身に付けた子供を育成する。

##### 具体目標

- 1 自ら学ぶ子（主体的な意欲と創造的な知性）
- 2 思いやりのある子（文化、自然、人間を愛する心）
- 3 たくましい子（強い意志と自律心、健康で優れた体）

##### 【人権教育に関する目標】

生命を大切にし、自他の人格を尊重し、互いの個性を認め合う心、正義感や公正を重んじる心などの豊かな人間性を育成する。

##### 【人権教育方針】

- ・基礎学力を充実させ、人間尊重の意識を強化する。
  - ・全教育活動を通じて、生命や人格を尊重し、他人を思いやるなどの豊かな人間性を育成する。
  - ・合理的な見方や考え方を培い、正しい判断力を育成する。
  - ・体験活動、交流活動等の機会を充実させる。
  - ・西町インターナショナルスクール(以下西町IS)との交流を通して、他国の人々の文化や多様性について理解させるとともに、日本人としての自覚をもたせる。
- ※西町ISは、東京都港区元麻布にある。黒保根小学校・中学校と姉妹校提携し、毎年交流を続けている。

#### 【姉妹校と共有する目標】

ともに分かち合い、ともに生き、ともに学びつつ、かつ個人の独自性を育てる。  
(西町 I S の創立者、松方種子が語った基本姿勢)

#### 【西町 I S の学習指針】

- 1 優れたコミュニケーション能力をもつ生徒
- 2 深い思考力のある生徒
- 3 自主的に学習をすすめる生徒
- 4 協調性のある生徒
- 5 質の高い成果を生み出す生徒
- 6 世界のいずれにおいても、自身のコミュニティーを代表し得る生徒

#### ○人権教育に係る取組一口メモ

日常の教育活動とともに、西町 I S との交流を通して、他国の人々の文化や多様性を体験を通して理解できるように、作業や活動内容を工夫している。

#### ○人権教育に係る取組の全体概要

- 学校の教育活動全体を通して実践する。小規模校のため、学年や児童個々の実態に基づいて、全体計画や年間指導計画の見直しを行う。
- 各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間の4つを柱とし、それぞれを横断的に関連付けて指導する。
- いじめアンケートを毎月実施し、児童一人一人の実態把握に努める。また、全教職員で情報を共有し、組織的に指導する。
- 日常生活において、いじめの早期発見に努める。いじめ解消に向け、組織的な対応、家庭との連携、迅速な対応を心がける。

#### 【西町 I S との交流から】

- いろいろな国の子供たちと接することにより、人の多様性を知る。また、西町 I S の子供たちが自分たちにどのように接してくれるか、西町 I S の子供同士がどのように交流しているかなどを体験を通して学ぶ。
- 西町 I S への学校訪問や、西町 I S の子供たちが英語で会話をしている様子を見て、自分たちの生活と異なる世界があることを知り、自分の生活を振り返る。
- 西町 I S の子供たちに、日本（黒保根町・桐生市・群馬県）の文化を紹介することにより、自分たちも郷土への理解を深め、日本人としての自覚をもつ。

### 3. 実践事例の内容

#### 【取組のねらい、目的】

山間部にある小規模校の児童に、姉妹校である西町 I S との交流を通して、他国の人々の文化や多様性を理解させる。また、積極的に外国の人々と関わろうとする意欲や態度を育てる。

- 西町 I S との交流により、国際理解教育を推進する。
- 各教科等の学習と西町交流とを人権教育の視点から関連付ける。特に、道徳や人権週間の取組は、重点化して学習させる。
- 両校の子供たちが、一緒に食事をする時間や、休み時間の遊びなどは、自由な交流ができる時間である。子供たちの自然の姿が現れる貴重な場として活用する。

### 【取組を始めたきっかけ】

桐生市黒保根町出身の星野長太郎・新井領一郎兄弟は、明治初期に、上質の生糸をアメリカへ直に輸出することに尽力した。新井領一郎の孫であり、ライシャワー駐日大使夫人ハルの妹である松方種子が開校した、東京都港区にある西町 I S と姉妹校提携を結び（1994年）、互いの学校を訪問するなどの交流を続けてきた。

### 【取組の内容 平成27年度】

#### ①初対面交流（5月）

各自が、相手校の全員と名刺交換し、英語による自己紹介（名前、学年、好きなもの）をした。その後、明治初期の校舎である第二番小学校校舎を見学（歴史を英語で説明）し、黒保根小開校の地である常鑑寺を訪問（甘茶、鐘つき、座禅の体験、境内での遊び）した。



（第二番小学校校舎見学）



（常鑑寺で鐘つき）

#### ②田植え交流（5月）

田植えの仕方を英語で説明し、一緒に田植えをした。その後、英語版の上毛かるた（上毛かるたの説明、ルールの説明を英語で行う）大会を行った。



（田植え）



（英語版上毛かるた）

上毛かるたとは、子供たちに群馬の歴史や文化を伝えるという趣旨で、群馬県の人物、地理、風物などが幅広く読まれている郷土かるたである。

#### ③鹿角交流（9月）

本校の児童が西町 I S のキャンプに参加し、遊んだり夕食をともにしたりしながら交流を深めた。グループでの遊びや食事は、交友関係をより深いものになっている。

#### ④稲刈り交流（10月）

稲刈りの仕方を英語で説明し、作業をした。その後、紙芝居（4年生が総合的な学習の時間に、黒保根小と西町 I S が姉妹校になった経緯を調べ、紙芝居を作成）を披露した。西町 I S の子供たちは、英語による発表を行った。



(姉妹校になった経緯の紙芝居)



(稲刈りの仕方を英語で説明)

⑤西町 I S 訪問 (平成 28 年 1 月)

6 年生が、西町 I S で行うもちつき会に合わせて訪問した。両校の子供たちが一緒に田植えや稲刈りをしたもち米を使用した。西町 I S の校舎内も見学させていただいた。



(西町 I S 訪問)



(テレビ会議で交流)

⑥テレビ会議システムの活用 (テレビ会議は平成 27 年 12 月から開始)

テレビ会議で事前打合せ (平成 28 年 5 月～)

5 年：初対面交流の内容を事前に打合せ

6 年：田植え交流・鹿角交流・稲刈り交流の内容を事前に打合せ

今後も、交流前にテレビ会議による事前の打合せを行い、子供たちによる自主的・主体的な活動にしていく。

【平成 28 年度、新たに追加した活動】

①初対面交流前のプレ交流 (5 月)

鹿角キャンプ場のキャンプファイヤーに 5 年生が参加した。



(キャンプファイヤー)

②八木節交流 (稲刈り交流後 10 月)

はじめに本校 5・6 年生が演奏を披露した。その後、4～6 年生と西町 I S の子供たち、教職員と一緒に踊った。

八木節とは、主に群馬県東毛地域で行われている伝統民謡である。桐生八木節祭りや黒保根祭りで演奏や踊りが行われ、運動会でも児童・教職員・保護者・地域の方々で踊っている。



(みんなで八木節踊り)

### ③西町 I S の授業に参加（11月）

本校5・6年の児童と黒保根中学校1・2年の生徒が、11月29日に西町 I S を訪問し、授業に参加させていただいた。西町 I S の授業に参加したのは今回が初めてである。子供たちがバディーを組み、黒保根の子供たちが困らないよう、親切に対応していただいた。英語での授業もあったが、西町 I S の子供が通訳をしてくれ、発言や発表の際には励ましたり、応援したりしてくれた。始めは緊張していた黒保根小の児童もすぐに打ち解け、授業を体験することができた。西町 I S の子供たちのプレゼンテーション能力や I C T 機器を用いた発表に驚くとともに、良い刺激を受けた。

不安な中での授業参加ではあったが、西町 I S の子供たちの親切で思いやりのある言動に、一層交流が深まった。休み時間の遊びや昼食の時間も楽しそうであった。今回の授業参加は、人への接し方やコミュニケーションという観点からも、本校児童にとってとても良い経験になった。



（5年生の授業）



（6年生の授業）

#### 【取組の計画（平成28年度） 基本は4～6年生】

月	交流内容
5月	プレ交流（5年のみ） 初対面交流 田植え交流
9月	鹿角交流
10月	稲刈り交流 西町フードフェア（保護者・児童参加）
11月	西町 I S の授業に参加（5・6年と黒保根中1・2年）
1月	西町 I S で餅つき（6年のみ）

※交流前には、短時間でも T V 会議を用いた打合せを行う。

## 4. 実施する際に生じた課題及びその解決策

### 【取組を実施する際に生じた課題】

- 本校の児童数の減少により、該当学年同士の交流が難しくなった。
- 西町 I S の子供たちは日本語と英語をともに話せるが、本校の児童は日本語しか話せない。西町の子供たちが英語で会話していると、参加できない。
- 学校所在地が東京都港区と群馬県桐生市のため、交流に関しての子供同士の事前の相談や打合せができない。
- 西町交流が、当日の作業や活動だけで終わってしまう。
- 西町交流と人権教育とのかかわりが明確でない。

### 【課題に対する解決方法】

平成27年度より、桐生市の国際理解教育推進校となった。

- 児童数の均衡化を図るため、本校の参加児童を4年生～6年生にした。そのため、各学年の総合的な学習の時間の年間指導計画の見直しを行った。
- 本校児童の英会話力の向上を図るため、外国人の英会話講師が学校に常駐し、放課後や休み時間等を用いて英会話レッスンを行ったり、ALTとともに外国語活動の授業に参加したりしている（中学校籍のALTは、週2日来校）。また、英会話ボランティアによるレッスンも行っている。
- 児童の自主的・主体的な交流にするため、TV会議システムを導入し、交流前の話合いや打合せ、連絡等を行っている。
- 西町交流のねらいを明確にして計画的に実施する。また、事前事後の指導をしっかり行う。
- 西町交流と、人権教育との関連を明確にした。人権教育の全体計画、西町交流の年間計画、各教科等の年間指導計画の見直しを行った。

## 5. 実践事例の実績、実施による効果

### 1 成果

#### (1) 挨拶

英語での挨拶が自然にできるようになってきた。英語で、気軽に、明るく元気に挨拶する児童が増えている。英語だけではなく、ふだんの挨拶も大きな声でできるようになってきた。

#### (2) 交流への意欲的な参加

西町ISとの交流に向けて、作業や活動の説明を考えたり、発表の練習をしたりしてから臨むことができるので、児童は意欲的に参加できるようになっている。交流の目的を明確にすることが、児童の活動を具体化し、自信へとつながっている。テレビ会議システムを導入したことで、事前に両校で打合せができ、自主的・主体的な活動になってきた。

#### (3) コミュニケーションの必要性の理解

西町ISの子供たちに説明するためには、まず、自分たちが内容を理解していなければならない。農作業に関していえば、田植えや稲刈りについて、農業支援隊の方々から指導を受けて、分かりやすい日本語で説明できるようにしておく必要がある。

また、英語で説明するためには、日本語の内容を英語に直し、話せるようにならないといけない。そのためには、積極的に英会話講師やALTの指導を受ける必要がある。

こうした過程の中で、児童は国語の学習の大切さと積極的に人とかわることの必要性を認識し、受け身ではいけないという考えがもてるようになってきた。

#### (4) 西町ISの子供たちの姿から学ぶ

西町ISには、多くの国の子供たちが在籍している。彼らの積極的な言動に触れることで、本校の児童は自分たちとの違いに驚いている。しかし、民族や宗教、言語などの異なる子供たちが、日本語と英語で積極的にかかわっている姿から、コミ

コミュニケーションの必要性と多様性を尊重することの大切さについて、多くを学んでいる。

#### (5) 交流の積み重ねから得る

西町 I S の子供たちは、非常に親切に本校の子供たちに接してくれる。本校児童が英語で説明すると、大きな拍手をしてくれる。話すときには、日本語で積極的に話しかけてくれる。別れ際には、「また会おうね」と言って、大きく手を振ってくれる。そうした優しく思いやりのある子供たちと交流を積み重ねるうちに、自然に同じような態度が身に付いている。西町 I S の子供たちと、これからも交流したいという動機付けにもなっている。

#### (6) 家庭や地域での会話

レッスンで習った英語を自然に家でも口にするので、保護者が驚くとともに、親子の会話のきっかけになっている。西町 I S との交流も家庭内の話題となっており、子供を通して保護者や地域の理解も深まっている。英会話レッスンや西町 I S との交流が、家庭や地域の一体化につながっている。

## 2 事例（平成 27 年度の学年）

コミュニケーション能力向上の成果を数値化することは難しい。そこで、児童の変容の事例を紹介する。

### 6 年男子：A さん

西町 I S の友達と英語で話したいという理由から、外国語活動の時間や英会話レッスンに積極的に取り組むようになった。西町 I S との交流では、英語での説明をやりたいと立候補したり、ALT に発音を聞きに行ったりする等の意欲が出てきた。

学級の友達にも、次第に自分の考えや思いを伝えられるようになってきた。学級活動では A さんの司会進行で物事を決めたり、委員会活動では委員長として考えて発言したりする場面が増えてきた。

交流後の感想に、「積極的に会話しないといけないことに気が付いた」と書かれていた。自分から進んでコミュニケーションを取ることの大切さや、自分の思いや考えを伝えることの必要性を学んだのではないかと思われる。

### 6 年女子：B さん

外国語活動の時間や英会話レッスンに積極的に取り組むようになった。

女子の人間関係も改善されてきた。休み時間に何をして遊ぶか質問する等、積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿が見られた。

その後、英語の通訳になって外国の人と積極的に話したいという夢をもつようになり、中学校でも英語の学習を頑張ると話していた。

## 6. 実践事例についての評価

### 【取組についての評価、及びそのように評価する理由】

- 4 年生から交流に参加することにより、交流する回数も交流する人数も大幅に増えた。多くの外国の人と接することにより、いろいろな人がいることを知ることができる。

- 西町 I S の友達と英語で話したいという目標があり、英語に対する学習意欲が増している。外国語活動の時間、放課後の英会話レッスン、ボランティアによる昼休みのレッスンなどに、意欲的に取り組んでいる。
- 作業や活動を通して会話をすることで、緊張することなくすぐに仲良くなれ、相手のことを理解できるようになっている。別れる際に「さようなら」を言うと、自然に互いが手を振り、「また会おうね」といった言葉が出る。再会を期待している様子が子供たちから感じ取れる。
- 西町 I S の子供たちの態度や様子を見ることにより、国籍にとらわれずに仲良くすることの大切さを学んでいる。
- 西町 I S を訪問し、校内や学校周辺を知ることにより、自分たちの生活環境との違いを実感し、黒保根小と西町 I S それぞれの良さを知ることができる。
- 休み時間やキャンプ場での自由な時間は、子供たちの自然な交流の様子が分かる貴重な場である。子供たちの楽しそうな様子を見てみると、両校の交流を今後大切にしていきたい。

**【保護者や地域住民からの反応】**

- 児童数の減少に伴い、交友関係の狭さを心配する保護者は多い。西町 I S との交流は、人との触れ合いとともに、外国の子供と友達になれるという点から、保護者・地域とも、大いに期待している。
- 年一回実施されている西町フードフェアには、保護者も参加している。保護者自身も外国の人と接したり、外国の料理を食べたりすることができるので、子供たちが交流することの良さを十分理解している。
- 田植えや稲刈りには、多くの保護者や地域の方が支援隊として参加している。西町の子供たちの様子もよく知っており、交流に対しては非常に協力的である。

**【現在、実施に当たって課題と感じていること】**

- 西町 I S との交流を通して人権教育を進めるに当たり、積極的に人とかかわろうとするコミュニケーション能力の向上が課題となっている。黒保根小の児童同士が固まるのではなく、自ら西町 I S の子供たちに話しかけていく意欲や態度を育てていきたい。
- 西町 I S の子供たちの中には、日本語を十分に話せない子供もいる。そうした子供とかかわるには、黒保根小の児童が英会話力を身に付けていく必要がある。片言であっても、英語で話そうとする気持ちは相手に伝わるので、外国の人をより理解するためにも、英会話力の向上を図りたい。
- 交流日当日にいきなり対面しても、打ち解けかけた頃には別れの時間になってしまい、深まりが期待できない。事前に TV 会議を用いて子供同士が相談したり、打合せをしたりすることで、期待と親しみを持って交流日を迎えることができる。今後、TV 会議システムのより効果的な活用を考えていきたい。
- 西町 I S との交流は、4年生からの活動である。3年生までの児童は、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間で人権教育を行う。4年生からの交流に向けて、1～3年生も、英会話の力を伸ばしていく必要がある。